第二講「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」

形容詞

性質や**状態**を表し、終止形が「**〜し**」となる。

★活用の種類＝二種類

「**ク活用・シク活用**」

※見分け方＝「**なる**」をつける。「**〜くなる**」＝**ク**活用、「**〜しくなる**」＝**シク**活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ク活用	白し	白						
			から	かり	○	かる	○	かれ
シク活用	をかし	をか	しく	しく	し	しき	しけれ	○
			しから	しかり	○	しかる	○	しかれ

※「　　　」には、**下に助動詞**がつく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★語幹用法→「訳し方」を覚える

○ **和歌中** A（**を**）B**み** ＝「**AがBなので**」（例）瀬をはやみ＝川瀬の流れが速いので

○ **あな**（「**あら**」もしくは「**単独**」）、語幹。＝「**ああ、〜。**」（例）あな、かま＝（ああ、やかましい。→）しぃっ、静かに。

形容動詞

性質や**状態**を表し、終止形が「〜**なり**」「〜**たり**」となる。

★活用の種類＝二種類
「**ナリ活用・タリ活用**」

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナリ活用	静かなり	静か	なら	なり／（　）	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり	堂々	たら	たり／（　）	たり	たる	たれ	たれ

※　連用形「　　・　　」には、**下に助動詞**がつく。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

音便

【形容詞】

○イ音便　「き」→「い」　（例）白**き**花→白**い**花

○ウ音便　「く」→「う」　（例）苦し**く**て→苦し**う**て

○撥音便　「か＋ラ変」の連体形活用語尾「か**る**・しか**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「か**ん**・しか**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）白か**る**なり→白か**ん**なり→白かなり

【形容動詞】

○撥音便　連体形活用語尾「な**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「な**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）静かな**る**めり→静かな**ん**めり→静かなめり

問一　「根を深み」の現代語訳として最も適当なものを一つ選べ。

1　根が深くなければ
2　根を深く掘り
3　根を深くすれば
4　根が深いだろう
5　根が深いので

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　次の傍線部①・②について、それぞれ基本形を示したうえで、活用の種類・活用形として適切なものを後の中から選べ。

「せむ方　なかりければ、…」（①：なかり）

「ある小家の　あやしげなるに立ち寄りて、…」（②：あやしげなる）

〈活用の種類〉

a　四段活用　　b　下一段活用　　c　下二段活用　　d　ラ行変格活用　　e　ナ行変格活用

f　ナリ活用　　g　タリ活用　　h　ク活用　　i　シク活用

〈活用形〉

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

①　　　・　　・

②　　　・　　・

問三　「同じ心なる友なくてただひとり眺むるは、いみじき月の光もいとすさまじく、見るにつけても恋しきこと多かるこそ、いとわびしけれ」の文中に形容詞はいくつ用いられているか。正しい数を次の中から選べ。

ア　3　　イ　4　　ウ　5　　エ　6　　オ　7　　カ　8

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

助動詞

★【活用】

下二段型	**る・らる・す・さす・しむ・つ**
ラ変型	けり・たり・なり・めり・り　**※断定**の「なり」・「たり」は**形容動詞型**
無変化型	**じ・らし**
形容詞型	まほし・たし・べし・まじ・ごとし　（**※「じ・らし・まし」以外の「～し・～じ」**）
四段型	**む・らむ・けむ**
サ変型	**むず**
ナ変型	**ぬ**
特殊型	**ず・き・まし**

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず						○
	ざ[ら]	ざ[り]	○	ざ[る]	ざ[れ]	ざ[れ]
き		○				○
まし		○				○

↓下に「　　　」がつく

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★**【接続】**（＝何形にくっつくか。＝上が何形か。）

接続	助動詞
未然形	る・らる・す・さす・しむ・む・ず・むず・じ・まし・まほし
連用形	けり・き・つ・たり（完了）・ぬ・けむ・たし
終止形 ※ラ変型＝連体形	めり・らむ・らし・まじ・なり（伝聞推定）・べし
サ変**未**然形 **四**段**已**然形	り
体言・連体形	なり（断定）
体言	たり（断定）
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　「さらに来じ」の傍線部の読みを平仮名で書け。

問五　「忘れ［A］けり」の空欄Aにあてはまる「ず」の助動詞を適切な活用形にして書きなさい。

問六　次のA・Bの波線部の活用の行、活用の種類、活用形をそれぞれ書け。

A「心のどかに聞こえむ」

B「夫人の見けむ目のやうにはあらずとも…」

A＝

B＝

問七　「人はいかにおもふらむ、…」の傍線部の活用の行、活用の種類、活用形をそれぞれ書け。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問八　次の空欄には、形容詞「すくなし」に助動詞「べし」が接続した文節が入る。文法的に正しい形を作り、すべてひらがなで、記せ。

釈空海などいへる人こそ、恥ぢ顔［　　］。

＊係り結びの法則

〈係助詞〉

ぞ
なむ
や
か
｝〜　　　　。

こそ　〜　　　　。

問九　「生ひなりたるらん」の品詞分解として、最も適当なものを次の中から選べ。

① 動詞＋助動詞＋助動詞
② 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
③ 動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞＋助動詞
④ 動詞＋動詞＋助動詞
⑤ 動詞＋動詞＋動詞＋助動詞

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」

① 次の波線部a・bの「来」の読みとして、正しいものを後のア〜オの中から選べ。

「ここに参り 来(a)べかりければこそと、…」
「参り 来(b)むことのわりなかるべきこと」

ア　こ　　イ　き　　ウ　く　　エ　くる　　オ　くれ

a＝　　　　b＝

② 次の空欄［A］・［B］には助動詞「ず」がはいる。それぞれにふさわしい形を後のア〜オの中から選べ。

「秀郷も後ろをかへりみ［A］、はるかに行き隔たりぬ。」
「夢も結ば［B］仮寝の枕、…」

ア　ず　　イ　ざり　　ウ　ぬ　　エ　ざれ　　オ　ね

A＝　　　　B＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「深く心得べきなり」の文法的な説明として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ア行下二段活用動詞の連体形　　イ　ア行下二段活用動詞の終止形
ウ　ハ行下二段活用動詞の連体形　　エ　ハ行下二段活用動詞の終止形
オ　ワ行下二段活用動詞の連体形　　カ　ワ行下二段活用動詞の終止形

④「窓をへだててかくぞいひ［　　］。」の空所に当てはまる助動詞として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　き　　イ　しか　　ウ　たり　　エ　ける　　オ　けれ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　模範解答

問一　5

問二　①　なし・h・イ　②　あやしげなり・f・エ

問三　オ

問四　こ

問五　ざり

問六　A　ヤ行・下二段活用・未然形　B　マ行・上一段活用・連用形

問七　ハ行・四段活用・終止形

問八　すくなかるべけれ

問九　①

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第二講　「形容詞」／「形容動詞」／「助動詞（活用と接続）」

〈解説〉

①　カ変動詞「来」を読むためには、活用形がわかればよい。**活用形**は「**下**」を確認する。aは、下が「べかり」＝助動詞「べし」。「**べし**」の**接続**は**終止形**。よって、「く」と読むので、正解はウ。bは、下が助動詞「**む**」。**接続**は**未然形**。よって、「こ」と読むので、正解はア。

②　形を変える＝活用形＝「下」確認。Aは「、」なので、**連用形**。さらに助動詞ではないので補助活用ではない。よって、正解はア。Bは「仮寝」＝**体言**なので、**連体形**。こちらも補助活用ではないので、正解はウ。

③　「**心得**」は覚えておくべき活用の動詞で**ア行下二段活用**。活用形は、下が「べき」＝助動詞「べし」。「**べし**」の**接続**は**終止形**。よって、正解はイ。

④　**空欄補充**の問題は**係助詞**が絡んでいるものが多い。本設問では空欄が「。」の上なので、活用形を素直に考えれば「終止形」か「命令形」になるが、**入試問題で活用形を考えるときに文末であれば、「係り結びの法則」が絡んでいることがほとんど**である。よって、上をざっと見て「ぞ・なむ・や・か・こそ」のどれかがないかを確認してみると、本設問でもやはり「**ぞ**」がある。したがって、**文末**は**連体形**となる。選択肢の中で連体形になっているものはエのみ。よって、正解はエ。

〈解答〉

①　a　ウ　　b　ア

②　A　ア　　B　ウ

③　イ

④　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。